

読売新聞 きょう（9月30日）のイチ押し

一面など 日中首脳 関係構築を確認

日中両国は29日、国交正常化から50年を迎え、岸田首相と中国の習近平国家主席が祝電を交換し、新たな時代の日中関係を構築することを確認しました。

- ★首相は祝電で「国交正常化を成し遂げた原点を思い直し、日中関係の新たな未来を切り開いていくことが重要だ」と訴えました。習氏は「首相とともに新しい時代の要求にふさわしい関係を構築するよう牽引していきたい」としました。
- ★首相は都内で開かれた記念行事への出席は見送りました。中国が覇権主義的な動きを強める現状を踏まえた対応とみられます。行事には林外相が出席し、「我々は今こそ、50年間という時間の中で培ってきた知恵と経験を大きなよりどころとすることが求められている」と述べました。

一面・経済面 10月から変わる暮らし

10月から、暮らしに関わる制度や価格が変わります。

損害保険大手は災害の多発を踏まえ、住宅向け火災保険料を約11～13%引き上げます。加熱式たばこは、税率の引き上げで一部商品が1箱10～20円の値上げに。原材料価格の上昇によって、ハムやビールなど値上げとなる飲食料品が6500品を超えと言われます。

このほか、最低賃金の引き上げ、厚生年金の加入条件緩和、子どもの出生後8週間以内に最長4週間の休みを取得できる「産後パパ育休」など制度も変わります。紙面では表も使ってわかりやすく説明しています。

他紙と比べて

デジタル技術で業務などの効率化や変革を目指す「デジタルトランスフォーメーション（DX）」が、子どもたちのスポーツの現場にも広がっています。スマートフォンのアプリを使った情報発信を部活のチーム運営に役立てたり、仮想現実（VR）技術を体育の授業に取り入れたり。機器の進化や普及に合わせ、子どもがスポーツに親しむ風景もどんどん様変わりしそうです。スポーツ面で特集しています。